

国立教育政策研究所 教育課程研究センター関係指定事業

平成 28 年度 教育課程研究指定校事業

研究課題について

学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

【高等学校（専門教科）】

◆研究期間：2年間（平成 28 年・29 年）

◆実践研究の目的

本研究では、学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関し、研究主題を設定して実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資するとともに、今後の教育課程や指導方法の改善に資する。

◆教科（工業）の研究課題

下記の①～③のいずれか一つ又は複数を選択し、研究課題を設定すること。

- ① 工業の各分野に関する科目（例：機械工作等）と実践的な学習活動を伴う科目（例：実習）において、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習指導についての研究
- ② 次の（ア）または（イ）の科目において、他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた学習指導についての研究
（ア） 実践的な学習活動を伴う科目（例：実習等）
（イ） 工業各分野の科目（例：機械工作等）
- ③ 教科「工業」のいずれかの科目において、学習の見通しや振り返りの活動を取り入れたり実社会・実生活との関わりを踏まえたりすることなどにより、生徒に主体性を持たせたり有用性を実感させられたりする学習指導についての研究

【留意点】

- ・ ①については、基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、それらを活用した思考力・判断力・表現力をも評価するための効果的な評価手法の工夫改善にも取り組むこと。
- ・ ②と③については、観点別学習状況の評価について、「関心・意欲・態度」又は「思考・判断・表現」に重点をおいて評価方法の工夫改善にも取り組むこと。

1 研究主題

学習指導要領の趣旨を実現するため実社会に通用する力を育む学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

2 研究主題設定の理由

本校では「実社会に通用する人材の育成」を教育方針に掲げ、地域に根ざし、ともに歩む工業高校を目指している。全日制では就職する生徒の4割強が地元企業に就職している。大手から中小企業まで幅広く求人が寄せられ、企業との厚い信頼関係を築いており、生徒の「学力向上」、「進路実現」、「資格取得」の3つの柱で人材の育成を行っている。

今回の研究は、学習指導要領の趣旨を踏まえながら、実社会に通用する人材の育成を図るための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善とした。特に、実社会で求められる思考力・判断力・表現力の育成を図るための言語活動の充実、それら进行评估する手法について研究し、校内外で共有・普及していくことを目的として研究主題を設定した。

3 研究の内容

工業技術基礎、実習、課題研究等の実践的な学習活動を伴う科目や、工業の各科目において、他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた学習指導についての研究、及び観点別学習状況の評価方法の研究

- 「工業技術基礎」の内容において、他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた指導方法及び、その評価方法の研究
- 実習において実験結果の仮説・考察、実習報告書を用いた振り返りの活動や、その評価方法についての研究
- 課題研究において思考力・判断力・表現力等の育成を重視した学習指導についての研究、及び評価方法の研究
- 電気基礎の演習において、他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた授業の実践及び評価方法の研究

4 1年間の主な取り組み

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ○研究体制の立ち上げ 委員会組織の設置 ○現状把握のためのアンケート調査の実施 ○先進校視察 ○産業界と連携した授業「事故防止と安全作業の心がまえ」 ○実習評価法の検討（ルーブリックの作成） ○小・中学校と連携した授業の実践 ○課題研究中間発表会の実施 ○研究授業の実施（協働学習） ○事後アンケートの実施 ○研究成果のまとめと次年度の研究の検討
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ○産業界と連携した授業「事故防止と安全作業の心がまえ」 ○実習評価（ルーブリックの検証） ○小・中学校と連携した授業の実践 ○課題研究中間発表会の実施 ○協働学習についての研究（ジグソー法、テスト=テイキング=チーム学習法） ○研究授業の実施（協働学習） ○事後アンケートの実施 ○研究成果のまとめ